

# 貸出を増やす取組に関する情報共有 地区内小中学校図書館の視察

岐阜県 岐阜県立東濃実業高等学校

## 基本データ

所在地	可児郡御嵩町伏見891
児童生徒数	712人
教職員数	82人
蔵書数	26,709冊
年間貸出冊数	10,343冊

## テーマ・活動のねらい等

【テーマ】公共図書館、地域との連携体制、ネットワークの構築

【活動のねらい】

- 貸出増加につなげるための効果的な取組について検証、有効な情報や実践事例を共有して、地区全体での貸出冊数増加を目指す。
- それぞれの地域を視察することで、生徒がどのような読書体験してきたのかを把握することができ、継続的な指導・支援ができる。
- 学校独自の特徴的な取り組みも多く行われ成果を上げている小中学校から、効果的な取組を高校図書館でも受け継ぐ。

## 取組・活動の概要

### (1) 貸出を増やす取組に関する情報共有

- 新入生オリエンテーション、図書の面出し展示、手作りPOP展示の方法など、本の貸出を増やす取組について、各種情報や約40の実践事例を地区内の高等学校で共有し、地区全体で貸出が増加するよう研究している。



手作りPOP展示

- 活動は岐阜県高等学校教育研究会の図書館部会をベースとし、地区で年4～5回の会議を行い、研究成果を図書部会での発表や県教育委員会のグループウェアを通して、県内高等学校や特別支援学校間で共有している。
- 本の貸出数を増やす取組についての各種情報や実践事例を地区内の高等学校で共有し、研究発表などを通して県内の高等学校や特別支援学校間で共有をしている。

### (2) 地区内小中学校図書館の視察

- 平成26年度から毎年、高等学校の司書が、小中学校を所管する県教育事務所の「学校図書館教育賞実地審査」に随行し、学校図書館を視察している。
- この視察は小中学校の図書館活動、地域の読書環境、市町村の図書館活動を知る貴重な機会であり、高等学校の図書館活動を見直すことに立っている。
- 地区内の小中学校の図書館を視察し、調査・研究することで、小中学校や特別支援学校との図書館連携を図っている。

### 取組・活動の工夫や特徴

- 県高等学校教育研究会図書館部会を活動のベースとし、そこでの研究成果を共有することで、地区の県教育事務所や公共図書館等と緊密に連絡し、協力することが可能となっている。結果として、研究活動に広がりや深みをもたらしている。
- 年4回の会議のほか、日々の情報共有には県教育委員会のグループウェアを活用している。
- 2017年度から県立学校に一律に導入された図書館管理システムの機能を活用して積極的に相互貸借を行い、自校では対応できない資料要求に応えている。
- 小中学校図書館の視察に参加できなかった職員のため、視察した司書が上記の会議内で報告を行っている。

### 取組・活動の成果や今後の展望

- 貸出増加の取組を始める前年の2017年度と比較して、2018年度は地区全体の貸出冊数が18%（一人当たり1.5冊）増加した。本校では9%（一人当たり1.2冊）の増加がみられた。
- 引き続き、地区の県教育事務所や公共図書館との連絡を密にすることで、小中学校図書館との具体的な連携方策について考えたい。

